外国語学部の教育目的・3つのポリシー

（理念・目的）

外国語学部は、ドイツ語、英語もしくはフランス語の運用能力を有し、その言語圏の言語・文化・社会を理解するための専門知識、または、交流する文化の諸相を理解するための専門知識を習得した、国際的視野に立つ教養人を育成することを教育目的とする。

学位授与方針（DP）

（学位授与要件、学位の種類）

外国語学部は、修業年限を満たし、所定の単位を修得し、卒業時点で以下の能力を身に付けた者に「学士（外国文化）」の学位を授与する。

（学位の裏付けとなる「能力」）

１．ドイツ語、英語、またはフランス語を第一外国語として、さらに、各学科の指定するもう一言語を第二外国語として修得し、それらの言語スキルに基づき、その言語を用いる地域を対象とする概括的な国際教養を持って、国際的な市民としての社会的責任を果たす能力を身に付けている。

２．第一外国語運用能力については、「聞く」「話す」「読む」「書く」という4技能に関して、受容と産出に関する高度な技能を用いて他者とのコミュニケーションを図り、異文化を理解し情報を収集することができる専門的な能力を身に付けている。

３．第二外国語運用能力については、「聞く」「話す」「読む」「書く」という4技能に関して、国際的に社会生活を営む上で必要とされる一般学術目的の能力を身に付けている。

４．各学科の各「コース」「部門」については、学修した言語スキルに基づき、その言語を用いる地域や複数の地域にまたがる歴史・文化・社会を対象とする多様な専門領域に関する知識を体系的・横断的に修得し、その知識を活用してさまざまな事象を正しく理解し、それについて適切に問題を設定して論理的に論述・議論する能力を身に付けている。

５．演習（ゼミナール）については、各演習の掲げるテーマについての系統的な専門知識の修得・理解に基づき、独自に設定された研究課題に関する発表、レポート作成、ディスカッション、グループワーク等を通じて養成される、少人数での協働学習によるコミュニケーション・スキルやチームワーク能力とともに、学習成果を自分の言葉で的確に表現することができる論理的なプレゼンテーション能力を身に付けている。

教育課程の編成・実施方針（CP）

（カリキュラム）

外国語学部では、学位授与方針に掲げる能力を養成するために、以下の通り外国語科目（ドイツ語学科）または学科基礎科目・学科共通科目（英語学科、フランス語学科、交流文化学科）、概論・専門講義・テクスト研究科目（ドイツ語学科）または学科専門科目（英語学科、フランス語学科、交流文化学科）、

演習、卒業論文、外国語学部共通科目、全学共通授業科目、免許科目（教職課程・免許教科はドイツ語学科、英語学科、フランス語学科、交流文化学科の当該欄参照）を配置する。

（外国語教育）

第一外国語をドイツ語、英語またはフランス語と定め、外国語科目（ドイツ語学科）または学科基礎科目（英語学科、フランス語学科および交流文化学科）として、第 1 学年から第 2 学年（第 1 学期から第 4 学期）までは「聞く」「話す」「読む」「書く」という 4 技能を総合的に修得し、口頭および書き言葉での受容と産出の基礎能力を養成し定着させるための必修科目を配置し、必要に応じて習熟度別教育を実践する。外国語科目（ドイツ語学科）または学科共通科目（英語学科、フランス語学科および交流文化学科）として、ドイツ語学科、英語学科およびフランス語学科では第 3 学年から第 4 学年（第 5 学期から第 8 学期）まで、交流文化学科においては第 2 学年から第 3 学年（第 3 学期から第 6 学期）まで 4 技能のより高度な能力を養成するための必修科目および選択必修科目を配置し、必要に応じて習熟度別教育を行い、当該言語を総合的に修得・理解し、さまざまな事柄についてその言語で表現し議論できるようにする。

各学科の定める第二外国語については、「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能に関して、国際的に社会生活を営む上で必要とされる一般学術目的の語学能力を養成するために、ドイツ語学科とフランス語学科においては全学的に編成される全学共通カリキュラム（全カリ）外国語科目群英語部門の枠組みで第 1 学年から第 4 学年（第 1 学期から第 8 学期）まで、英語学科においては全カリ外国語科目群外国語部門（英語以外）の枠組みで第 1 学年から第 2 学年（第 1 学期から第 4 学期）まで、交流文化学科においては同じく全カリ外国語科目群外国語部門（英語以外）の枠組みで第 1 学年から第 3 学年（第 1 学期から第 6 学期）まで選択科目を配置し、そのうち各学科の定める単位数を必修とする。

（教養教育）

建学の理念に基づき、学生の人間形成にとって必須と考える共通の教養を学科の専門性を越えて修得できるように、学部・学科を越えて編成される全カリの枠組みで全学共通授業科目を配置し、以下のような知識、技能、態度を養成する。

・思想、歴史・文化、社会、自然・環境・人間に関する概括的な知識の理解、さまざまな言語およびその文化的背景に関する知識の理解。

・問題や関心に基づいてさまざまな知的領域を探索できる技能、および論理的・芸術的・倫理的・科学的・社会科学的等の多様な思考能力、諸言語によるコミュニケーション技能。

・組織やチームの一員としての統率力と自己理解のための態度、自律的かつ積極的であるとともに多様性を尊重する協調的かつ国際的な態度、創造性・社会性・好奇心・チャレンジ精神・粘り強さ。

全学共通授業科目は学際的学修を可能にするように、分野の点で大きく「ことばと思想」、「歴史と文化」、「現代社会」、「自然・環境・人間」の 4 つに分け、授業形態の点から全学総合科目群（全学総合講座部門、全学共通講義科目部門、全学共通実践科目部門、スポーツ・レクリエーション部門）と外国語科目群（英語部門、外国語部門（英語以外）、日本語部門（外国人学生および帰国学生用））の 2 科目群 7 部

門とし、科目それぞれの特性および内容に応じて第 1 学年から第 4 学年（第 1 学期から第 8 学期）まで順次あるいは必要に応じて履修できるよう配当する。

（学際的教育）

学科の専門領域を越えた総合的な知識を修得し、国際的・学際的な視野をもって分析し、自らの見解を提示できるようにすることを目標として、外国語学部共通科目を設置する。履修の仕方は、各学科の定めるところによる。

（専門教育）

ドイツ語圏、英語圏もしくはフランス語圏の言語・文化・社会に関する専門知識、または、複数の言語圏にまたがる交流する文化の諸相に関する専門知識を体系的に修得するために、ドイツ語学科においては概論・専門講義・テクスト研究科目、英語学科、フランス語学科および交流文化学科においては学科専門科目を設置し、ドイツ語学科、英語学科およびフランス語学科では第 2 学年から第 4 学年（第 3 学期から第 8 学期）に、交流文化学科においては第 2 学年から第 3 学年（第 3 学期から第 6 学期）に配当するとともに、それをコースまたは部門に分ける。

専門教育への導入として、第 1 学年（第 1 学期から第 2 学期）に必修科目または選択必修科目として入門講義を置き、また、ドイツ語学科では第 2 学年（第 3 学期から第 4 学期）、交流文化学科では第 1 学年（第 1 学期から第 2 学期）に必修科目として「基礎演習」を設置する。

コースとは別に第 3 学年から第 4 学年（第 5 学期から第 8 学期）の必修科目として演習（ゼミナール）を設置する。演習では、それぞれのテーマについての系統的な専門知識の修得・理解に基づき、少人数での協働学習（グループワーク）によりコミュニケーション・スキルやチームワーク能力を修得するとともに、独自に設定した研究課題に関する研究発表・レポート作成・ディスカッションを通じて学習成果を自分の言葉で的確に表現する論理的なプレゼンテーション能力の獲得を目指す。

卒業論文を 4 年次の選択科目として置く。

交流する文化の諸相を理解する概括的な知識を修得するために、ドイツ語学科、英語学科およびフランス語学科でも交流文化論の科目群を選択科目として設置する。

（教職課程）

ドイツ語学科、英語学科、フランス語学科、交流文化学科について、それぞれの当該欄参照。

入学者受け入れ方針（AP）

（求める人物像）

外国語学部では、獨協大学および本学部の教育目的に共感し、次の学力・適性をもつ人物を求める。

・高等学校段階の基礎的な学力、日本語での思考力、判断力および表現力ならびに専門分野の学修に必要な学力、特に英語、ドイツ語またはフランス語の学力。

・大学においてドイツ語、英語またはフランス語を学修するのに十分な語学適性。

・将来、国際的視野に立つ教養人として社会的に活躍する意欲と倫理観。
・ドイツ語圏、英語圏またはフランス語圏に脈々と受け継がれる言語・歴史・文化・社会を理解したい、あるいは、複数の地域にまたがる多様な国際関係・文化交流を多角的視点から学びたいという意欲。

（出願要件）

高等学校もしくは中等教育学校卒業（当該年度末卒業見込みを含む）またはそれに相当する資格（詳細は入試要項および入試概要参照）と学力を要する。科目別では、全ての試験方式で外国語（ドイツ語、英語またはフランス語）の学力を求める。それに加えて国語（または小論文）、地理歴史・公民、数学、理科のいずれか一つもしくは複数の科目の学力を入試種別に応じて求める。

（入学者選抜方法）

外国語教育重視の観点から、外国語科目（ドイツ語、英語またはフランス語）を重視した入試を行う。また、多彩な学生の受け入れを図るべく、一般入試をはじめとするさまざまな入試制度（詳細は入試要項および入試概要参照）を設ける。